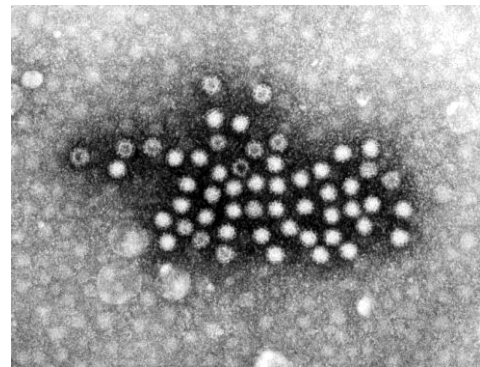


嘔吐・下痢症状が多くみられています！！

感染性胃腸炎という診断名は様々な原因による症候群であり、ウイルスや細菌によるもののほか、寄生虫によるものもあります。

冬季に発生する感染性胃腸炎のほとんどがウイルスによる胃腸炎です。原因ウイルスは、ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなどが知られています。例年初冬から増加し始め12月頃にピークとなります。食品から病原体が検出された場合などは食中毒となります。

胃腸炎の原因になるウイルスに対しての治療法はなく、対処療法を行います。



ノロウイルスの電子顕微鏡写真

かきについてのミニ知識

かきには「加熱用」と「生食用」がありますが、「加熱用」か「生食用」かは、養殖した海域の細菌量によって決めているので、「生食用」にノロウイルスが含まれていないという保証ではありません。

ノロウイルスはウイルス粒子だけでは増えることができず、人間の生きた細胞（小腸）の中でのみ増えるので、保存方法が悪いから貝の中で増えるというのではなく、新鮮なものでも食中毒になる恐れがあります。

感染経路

ノロウイルスの感染力は強く、感染経路はほとんどが食物を介した経口感染です。そのため食品を介した感染をはじめ、感染者の便や吐物が触れた手を介して人から人へと感染します。また、飛散した便や吐物が乾燥し、その飛沫から感染する場合があります。

※ このウイルスは、下痢や嘔吐などの症状がなくなっても、通常1週間程度、長いときには1ヶ月程度糞便の中にウイルスの排泄が続くことがあるので、症状が改善した後も注意が必要です。

二次感染予防のために…

便や吐物の処理の際には必ずディスポ手袋を使用し、処理中は他の場所に触れないように細心の注意を払ってください。手袋を外した後も必ず石けんと流水による手洗いをし、擦式アルコールで消毒をしましょう。

感染予防の基本は「手洗い」です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸 Na(ピューラックス)が有効ですが、生体消毒への適応がありません。よって、必ず石けんと流水でノロウイルスの絶対量を減らし、その後擦式アルコールを使用してください。アルコールだけでは不十分です。

ウイルスの再付着を防ぐためには水道のカランも石けんで洗いましょう。

患者さまにも…

下痢の患者さまがウイルスを撒き散らしてはいくら予防をしても追いつきません。そのため、患者さま本人にも手洗いの重要性を啓蒙しましょう。



※ 便・吐物そのものには、6倍ピューラックスを振りかけて1～2分おいたあと、静かに拭き取る

※ 便・吐物を拭き取った後は、60倍ピューラックスで清拭

※ 付着した可能性のある所は、120倍ピューラックスで清拭

下痢をしている患者さまの使用したトイレ(便器・ドアノブなど)や手の触れる場所など

← 血液に対する処置と同じ

参考

加古川健康福祉事務所 健康増進課
東京都感染症情報センター
大阪府健康福祉部食の安全推進課
以上、各機関のノロウイルス情報より